

第3回「県立高校の将来ビジョン検討委員会」について

- 1 日 時 令和7年9月8日（月曜日）午後2時から午後4時まで
- 2 場 所 鹿児島県庁行政庁舎16階【教育委員会室】
- 3 出席者 委員15人 溝口委員，土岐委員，上國料委員，門田委員，
小澤委員，本坊委員，池田委員，黒木委員，
原田委員，市園委員，柳委員
【オンライン】塩瀬委員，池上委員，森園委員，水間委員
事務局（高校教育課長，高校教育課指導監，高校教育課参事，
総務福利課教育DX推進室教育デジタル推進係長 他）

4 公開・非公開の別：公開

5 傍聴者数：1人（報道1社）

6 協議事項：生徒の多様な学びのニーズへの対応（全ての生徒の学びの充実）

7 主な質疑

Q AIの活用について，県ではどのようにされているか伺いたい。

A 生成AIの活用については特に制限をすることなく，生徒，先生方も使うように進めているところである。活用にあたっては，文科省から出されている生成AIの利活用に関するガイドラインに従いながら，活用を進めている。

Q 奄美群島コンソーシアムという形で，高校生が交流できるものを作っているということであったが，鹿児島県版の探究にかかる交流等について，何かされていることがあるか。

A SSHコーディネーターを今年度から配置しており，SSH校だけではなくて，県内の学校の探究活動の支援をしている。今後は，SSH校を中心にその他の学校も含めて，鹿児島科学技術コンソーシアムを創設する予定である。

Q DXハイスクールの状況について伺いたい。

A 例えば農業高校においては，ドローンを導入し，DX化された農業の進め方について学習している。また，水産高校においては，チョウザメの卵がこういった温度環境でふ化が進んだかなどをデータとつなげながら研究を行っており，加えて，学習内容に詳しい先生方を講師にお招きしたりしながら学習を進めている。

Q 探究活動に関する課題について詳しく伺いたい。また，地域の企業あるいは大学などの研究課題としての接続というような事例や探究活動に特化した外部コーディネーターが入っている事例はあるか。

A 各学校それぞれで課題があるため，例えば外部講師による課題設定に特化した講義の機会を設けている。企業や大学等とは，SSH校を中心に連携しているところもある。また探究コンテストに企業の方々にも参加していただいております。企業側から連携しようというような声をいただいたこともある。外部コーディネーターについては，本課にSSHコーディネーターを一人配置している。

Q 農業高校の学びの充実懇話会を，令和6年度中に4回開催したとのことだが，感想や方向性があれば伺いたい。

A 農業高校の取組が周知されていないと御意見をいただいたので，農業高校での学びを動画にまとめた。動画を中学生の進路指導等にも活かし，農業高校を選択肢の一つとして考えてもらいたい。また，コーディネーター等の活用についての御意見をいただいたので，今年度，食に関するコーディネートをしていただく方に入ってもらい，ブランド化をする取組をしている。いただいた御意見を参考にしながら，農業高校の

学びが充実したものになるように事業等にも反映させながら、改善を図っているところである。

Q 学校での外部人材の登用について伺いたい。

A 外部人材の活用については、国の方でも積極的に進めるようにとされている。外部の方が教員と授業や実習を一緒に行っていくということは可能である。

8 主な意見

(1) 前回議案の補足意見

○ 中学校で特別支援学級に在籍していた生徒の多くが公立高校に入学している実態を考えると、特別支援教育支援員の拡充をお願いしたい。

(2) 普通科の学びの充実

○ 各高校の生徒の探究の成果や関心テーマの交流ができるように「学びのプラットフォーム」を構築してはどうか。また、インターネットを利用することで、自治体や地元企業との連携も強化されるのではないかな。

○ 鹿児島県の教育のテーマやビジョンが土台になって、そこにDX化や鹿児島県の教育の魅力というのをひもづけて考えていくべきではないかな。

○ 入学者アンケートの「高校を選ぶとき、何を重視したか」は有益であるが、過去との比較で価値観の推移を示してもらえると議論が深まる。特にコロナ以降のここ5～6年で価値観が変わっている可能性があるため、その変化も踏まえて鹿児島県の私たちが何を考え、学校がどうあってほしいと思っているのかというのを議論できるというのではないかな。

○ 入学者アンケートについては、学科別に回答してもらうなど、工夫が必要ではないかな。

○ 課題解決のカリキュラムなど大事であるが、それで育てた大事な子供たちが、結局、県外に出てしまう。鹿児島に残って、鹿児島に貢献してくれるような子供たちが育ってほしい。

○ スクール・ポリシーというのは、作って終わりではなくて、それが十分に機能しているかというところの検証までが必要な部分でもあるので、子供たちの声を広く聞けるとよいのではないかな。

○ 大規模の普通科と小規模で生徒確保に苦しむ普通科は状況が異なる。普通科、専門学科とも、教育課程にこだわらず、地元企業等と連携できるような取組が必要である。普通科改革は単独で考えるのではなく、様々な取組とリンクさせて活性化を図る視点も必要ではないかな。

○ 地域ごとに条件が違う中で、普通科自体が多様化する意味があり、その特徴をどれだけ見せられるのかが、今後の高校として生徒募集に影響してくるという議論もある。

○ スクール・ミッションとかスクール・ポリシーを作成しても、作成した人しか知らないという状況もある。高校でもしっかりと教職員同士でスクール・ポリシーを共有させ、それをさらに中学校や小学校にも伝えていかないといけない。

○ AIやDXの導入について、学校の授業よりもむしろ、校務をまずDXで効率化させることが重要である。

○ アウトリーチ活動のところに結構予算をつけている企業もあり、次世代教育をやっている事例もたくさんある。教育の部署だけではなくて、例えば産業振興を中心にやるべき部署などと連携、協力をするのもよいのではないかな。

(3) 専門学科の学びの充実

- 工業DX, 商業DX, 農業DXで, 専門学科をDXするときに地元企業と連携し, 企業にとっても学びの場になれば, 若者にとって魅力ある働く場所が地元が増えてくるのではないかと。地元企業が生徒に教えてあげるという一方的な関係だけではなく, 地元企業も生徒と一緒に学ぶという機会としても, 特に専門学科に力を入れる施策が有効にはたらくのではないかと。
- 鹿児島県は他県と比較して, 普通科より専門学科が多いのであれば, 専門学科を充実させることによって, 結果として地元に関心の向く生徒が増えるのではないかと。専門学科の魅力化は, とくに鹿児島県にとってすごく重要ではないかと。
- 企業インタビューを活用して, 高校生に鹿児島の魅力を再認識させた結果, 県内就職率の向上につながった事例がある。生徒が地元の良さを知る機会を設けることは重要である。

(4) 総合学科の学びの充実

- 学校として, どういったタイプの生徒にとっての多様な学びができるということを示して, そこに強い先生方が集まって, それに沿った科目が集まらなないと, 選ぶ側としても選ぶににくいという悪循環になってしまうこともあるのではないかと。
- 多様な科目開設のために, 外部講師を確保するのが難しかったということもあったのではないかと。そのような中, 少子化が進み, 学校自体が小さくなって, 教職員自体が少なくなり, さらに多様な科目開設ができにくい状況となっているのではないかと。外部の専門的な知見を持った方が手伝ってくれると非常にありがたい。
- 大人がもっている先入観が生徒の自己否定にもつながりかねない。総合学科だからこそ選べる進路選択の自由度が魅力としてしっかり中学生に伝わった上で, 地元企業とか地元に残れるような生徒も増えるといいのではないかと。
- 各自の自由な学びを保障していくというところで, 単位制も総合学科もどういう目的を持っていくのかによって, 全く違った学校像ができてくると思う。やはり, どういう生徒像を想定した学校とするのかというところがクリアになっていることは, 選ぶ側の生徒にとっても重要である。

(5) その他

- 公立高校でも教員は仕事が大変だったり, 人が少なかったりというところで, AIの導入を進めればよいのではないかと。
- 企業等との連携においては, OB・OGとの連携が有効である。OB・OGだけでなく, 学校を応援してくれる企業との連携も有効であり, 多くの企業との連携には, コーディネーターの配置が効果的である。
- 学校の生徒のニーズや社会・地域のニーズに合った高校の特色というのが必要ではないかと。高校での学びのニーズや特色を高校にも考えてもらい, それをまた発信してもらいたい。
- 単位制高校について, ほとんどの県は20年間で大きく増やしている中, 減らしている県がある。課題があって減らしたのだとすれば, その課題を把握する必要があるのではないかと。
- 経済的にも地域的にも, 行きたい学校に遠いから行けない。バスもないし, 単車で行くにも1~2時間かかるという現実がある。田舎に行けば行くほど, 私学のスクールバスが通っている。学びの充実も考えるのも大切であるが, そういう現実も検討課題に挙げていかないと, 解決には結びつかないのではないかと。